

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児通所支援事業所 ぼのぼの		
○保護者評価実施期間	令和7年1月10日 ～ 令和7年1月26日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38 (回答者数)	22
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月4日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの将来性を見通し、地域で生きる子どもの姿を思い一人ひとりの願いや思いが実現する為の療育活動を実施している	【施設外の活動の充実】 ○地域の公園や公共施設を利用することで、利用の仕方や施設、公園の使い方、マナーなどを知らせ経験することで、他利用者と譲り合いながら自分自身で楽しめるように支援を行なっている。 ○遠足・お買い物等から、商業施設の利用の仕方やお金の使い方を実践で学べるように支援を行なっている	○実践に近い形で子どもの楽しみを充足できる事を念頭におき、自立を促していけるような活動を今後も模索していく。 ○自分で出来た喜びが味わえるように、子どもと一緒に色々なパターンをシミュレーションしながら、各自に合わせた自立の満足感が味わえるように手立てを考えていく。
2	「子どもの興味にとことん付き合う」	○子どもの興味に大人が寄り添い、子ども自信が自分で出来たという思いが味わえるように子ども主体の支援を行なっている。 ○子どもの独創的なアイデアを形にし、思いが形になるように大人がサポートしながら、自己肯定感の向上を目指している。	○子どもとの向き合い方や、子どもへのサポートの仕方などそれぞれの子どもの違いで、職員は一人ひとりの子どもに寄り添いその場面にあった適切な支援が出来るように研修会等を通じてスキルアップに励む。
3	広い事業所 広い建物を生かした自由な生活 目的に合わせて部屋を区切り、子どもたちが分かりやすく、使いやすい環境が整えられる 静かな空間が必要な時に人と離れた環境が提供できる	○保育園の跡地を使用しているため、複数部屋があり、用途に分けて生活が出来る。 ○ホールがある為運動等もでき、戸外に出れない時も事業所内で体を使って遊ぶことが出来る。 ○人の多さやざわざわした時に避難できる場所、環境が確保できる	○学校や家庭、社会生活等今後生活に必要な環境を事業所内で疑似的に作れるように考えていき、社会生活等の実践の中で生きるように工夫をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門性の獲得 移動等があり、各職員のスキルの水準を合わせていく事が難しい事がある	日々の業務の中でOJTを行ないながら専門性の獲得、各職員のスキルアップを目指しているが、専門性の獲得は一長一短ではない事	年間を通じてOJTを行ないながら各職員のスキルアップを目指していく
2	保育園の建物を使っているので建物の構造が乳幼児サイズの物が多く、使いにくい所もあるので改装が必要 建物の老朽化に伴い多くの修繕が必要	旧保育園を使い始めたころに改装はしているが、大型の改装だった為予算が足りず手付かずになっているところがある。 建物の老朽化も深刻で、修繕したいが、修繕費が大きな金額になるのですぐには出来ない。	年間計画を立てながら、修繕箇所を少しずつ直し、改善していく
3	長期休暇時に定員を超過申し込みがあり、全員の要望に応えることは困難	長期休暇時（特に夏季長期休暇）に毎回定員を超過利用申し込みがあり皆さんの要望に応える事が出来ていない。 特にお仕事を持たれている保護者の皆さんに関しては、利用調整することも難しく、時にお叱りを受けることもある。	定員以上の受け入れは、事故等のリスクを考えても受け入れる事は困難な為保護者の理解を得るようにする。 相談支援事業所と連携を取りながら、併用利用できるように調整すると共に保護者に理解を求める。